

2022 四国インターハイボクシング
ウェルター級チャンピオン

支えと刺激になった ライバルの存在

札幌工業高校ボクシング部 3年生

おぎの しょうへい
荻野 照平 さん



2022 四国インターハイウェルター級を制覇し、北海道に11年ぶりとなる金メダルをもたらした。同年のとちぎ国体には北海道代表として、IBA（国際ボクシング協会）世界ユース選手権には日本代表として出場。

——ボクシングを始めたきっかけ
兄の影響で、小3から千歳ボクシングジムに通い始めました。中学時代はなかなか勝てない時期が続く、やめることも考えましたが、兄が勝てなかった選手を倒したいという思いが強くなり、高校でもボクシングを続けようと思いました。

——高校生活を振り返って

高1のときに全国選抜で準優勝してから、対戦相手に自分のボクシングを研究されたこともあってなかなか優勝に届かない日が続きました。今回、最後のインターハイで日本一になって、とても嬉しいです。

高2のとき、試合中に指を骨折したことがあったんです。その日の相手は前回の対戦で負けた相手、何としても倒したい気持ちが空回りしてしまい

ました。それから2か月は満足に練習ができなくなり、どうしようかという気持ちでした。

そんなときに支えと刺激になったのが、ライバルの存在でした。札幌のボクシングジム出身の、1つ下の後輩で、最初は「こんなすごいヤツがいたのか」と、敵としか見ていませんでしたが、話していくうちに気が合って友人のような関係になり、お互いに技術を教え合うまでになりました。彼はサウスポーで、僕が苦手だった左フックが得意だったのですが、指を骨折して得意の右ストレートが打てなくなったとき、彼から打ち方を教えてもらった左フックを練習して得意技にできたんです。これを武器に、インターハイでも勝ち上がるこ

——将来の夢

実は、ボクシングは高校を最後に引退するつもりです。来年からは自動車の専門学校に進学するのですが、幼い頃からボクシングとともに続けてきたオートバイのレーサーになるという夢があるので、自動車整備を学ぶとともにプロレーサーになるためのトレーニングに取り組みます。将来はプロの世界で勝ち続け、国際A級ライセンスを取得し、オートバイでも世界をめざしたいです。

第4回

今月号では、睡眠時無呼吸症候群の検査と治療について紹介します。

本日は怖い、夜間の無呼吸。前回、睡眠時無呼吸症候群という、睡眠中に呼吸が止まり、それによって日常生活に様々な障害を引き起こす病気についてお話ししましたが、問題は症状にとどまりません。居眠り運転による交通事故を引き起こす社会問題の一つ。もう一つは、この病気があると、糖尿病、高血圧、心不全、不整脈、脳血管障害、認知障害、突然死などのリスクが高くなることです。薬が効きにくい高血圧にはこの病気が隠れていることが多いといわれていますので、思い当たる方は要注意です。

検査は、外来で簡易 PSGと呼ばれる検査の器

械をお渡しします。ご自宅でも検査を行い、寝ている時の気流、経皮的酸素飽和度を調べます。その結果で、この病気が疑われる時は、脳波計や無呼吸の時の胸や腹部の動きを同時に調べてどういったタイプの無呼吸かを知り、かつ、睡眠時間の中で正確に無呼吸の回数を評価するため、1泊2日入院で精密検査を行います。

治療は、代表的にはCPAPという器械を用い、鼻マスクを装着して機器より一定圧力の空気を送り込むことで気道を確保し、無呼吸の発生を防ぐものです。そのほか、下顎を前に押し出すような特殊なマウスピースを歯科で作成していただく治療法もあります。

重症度や無呼吸のタイプによって最適な治療法が異なりますので、専門医にご相談ください。

先生、教えて！



市立千歳市民病院 地域医療連携課
☎(24)3000 内線 8138

睡眠時無呼吸症候群



市立千歳市民病院
診療部長（内科系担当） 竹藪 公洋